

科目名	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習 Seminar on Translational Research in Family Nursing
授業形態	講義(30%)、演習(70%)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋学期 B・C 火曜日5・6 (他曜日への振替あり。各回受講生との調整により変更の可能性あり)
単位数	2単位
担当教員名	涌水理恵 岡山久代 竹熊カツマタ麻子 柴山大賀 小澤典子 トゴバタラ ガンチメゲ 福澤利江子
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 岡山 久代 okayama@md.tsukuba.ac.jp 竹熊 カツマタ 麻子 asakotk@md.tsukuba.ac.jp 柴山 大賀 taiga@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp トゴバタラ ガンチメゲ ganchimeg.tb@gmail.com 福澤 利江子 rkishi1@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)トランスレーショナルリサーチについて知ることが出来る (2)トランスレーショナルリサーチについて説明できるようになる (3)リサーチレビューの方法を知ることが出来る (4)リサーチレビューを行うための目的を明確にすることが出来る (5)リサーチレビューを行うことが出来る (6)実践で研究を活用する意義や効果、具体的な方法について知ることが出来る (7)妊娠期に関する国内の家族看護の研究の動向について知ることが出来る (8)養育期に関する国内の家族看護の研究の動向について知ることが出来る (9)慢性疾患に関する国内の家族看護の研究の動向について知ることが出来る (10)研究を活用する場面について検討し、その目的と意義を明確に出来る (11)どのように活用していくか、計画を立案することが出来る (12)立案した計画について説明することが出来る (13)様々な調査研究の手法について知ることが出来る (14)調査研究について理解することが出来る (15)調査研究の手法についてまとめ、説明することが出来る (16)看護実践に向けた研究計画を立てることが出来る (17)看護計画について説明することが出来る (18)看護計画について修正を行い、研究計画を作成することが出来る (19)家族の研究に関する倫理的な視点について理解することが出来る (20)家族の研究に関する倫理的な視点について説明することが出来る
他の授業科目との関連	看護看護科学特別実習、家族看護学統合実習、看護科学特別研究
履修条件	特になし
授業概要	家族看護援助方法に関する最新の研究動向を調査・整理し、そのうえで学生ひとりひとりが家族への独創的な新しい看護援助法を検討し、臨床の場で有効性や安全性の検討、また汎用性を高めるための工夫など日常の看護実践への応用に向けて、ディスカッションを中心に構成する。
キーワード	家族看護、トランスレーショナルリサーチ、研究の批判的吟味

<p>授業計画</p>	<p>1 (未定) (家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習のガイダンス総論)(涌水)  2 (未定) (トランスレーショナルリサーチとは)(涌水)  3 (11/19) (家族看護学領域のリサーチレビュー1)(ガンチメゲ)  4 (11/19) (家族看護学領域のリサーチレビュー2)(ガンチメゲ)  5 (11/26) (家族看護学領域のリサーチレビュー3)(ガンチメゲ)  6 (11/26) (看護実践に向けてのトランスレーショナル・リサーチ)(カツマタ)  7 (12/3) (家族看護領域の国内研究の動向:妊娠期)(岡山)  8 (12/3) (家族看護領域の国内研究の動向:養育期)(岡山)  9 (12/10) (家族看護領域の国内研究の動向:慢性疾患)(柴山)  10 (12/10) (家族を援助するための新しい看護実践法の検討1)(柴山)  11 (1/7) (家族を援助するための新しい看護実践法の検討2)(カツマタ)  12 (1/7) (家族を援助するための新しい看護実践法の検討3)(カツマタ)  13 (1/14) (家族を対象とした調査研究の手法1)(福澤)  14 (1/14) (家族を対象とした調査研究の手法2)(福澤)  15 (1/21) (家族を対象とした調査研究の手法(まとめ)(涌水)  16 (未定) (新しい看護実践法に向けた研究計画立案1)(小澤)  17 (未定) (新しい看護実践法に向けた研究計画立案2)(小澤)  18 (未定) (新しい看護実践法に向けた研究計画立案3)(小澤)  19 (未定) (患者と家族に関する研究における倫理1)(涌水・小澤)  20 (未定) (患者と家族に関する研究における倫理2)(涌水・小澤)</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>講義(9時間)、演習(21時間)</p> <p>事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。  毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。  授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。  評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で到達目標の達成度を判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。評価基準は以下の通り。  到達目標を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。  到達目標を大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。  到達目標を優れて達成できていると判断されればAと判定する。  到達目標を非常に優れて達成できていると判断されればA+と判定する。</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等</p>	<p>随時紹介・随時配布する。</p>
<p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p>	<p>やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。</p>